

Minami Kyushu University Syllabus

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2023年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	食品開発科学科				
科目名称	人間形成論						授業形態	講義	
科目コード	111610	単位数	2単位	配当学年	1	実務経験教員		アクティブ ラーニング	○
担当教員名	植村 秀人							ICT活 用	
授業概要	本授業は、日米の比較をテーマとした新書を教科書として選定し日米の比較から、人間形成を理解することを目指します。								
関連する科目	<p>教養科目のため特に事前に履修すべき科目は指定しない。 ただし、社会全般への興味関心を高めることなどの取り組みを期待したい。 また、担当者は、教職課程受講希望者の受講を推奨したい（免許取得科目でないが参考となる学習となるよう留意したい）。</p>								
授業の方法と進め方	<p>1. 本科目は、講義を中心とする。2. 講義の中には、学生からの問題提起型の講義を行う。（1）テキストに関して報告者（話題提供者）が話題を提供する。（2）報告者からの話題提供に対して、他の受講者からの意見交換をする。（3）（2）を踏まえ、講義担当者から解説や疑問点の講義などを行う。</p>								
授業計画【第1回】	はじめに 授業の位置づけなどについて説明を行う。								
授業計画【第2回】	日本の教育と欧米の教育 本講義の前提となる教育の違いなどについて説明する								
授業計画【第3回】	第1章「リサの疑問」① 第1章前半「（1）日米の子供観」の内容について								
授業計画【第4回】	第1章「リサの疑問」② 第1章前半「（2）日米親子関係のパターン」の内容について								
授業計画【第5回】	第2章「かくれたカリキュラム」① 第2章「（1）日米小学校観察」の内容について								
授業計画【第6回】	第2章「かくれたカリキュラム」② 第2章「（2）日本の小学校と協調行動」の内容について								
授業計画【第7回】	第2章「かくれたカリキュラム」③ 第2章「（3）アメリカ式「自己顕示術」」の前半ははじめから「天賦の能力」までの内容について								
授業計画【第8回】	第2章「かくれたカリキュラム」④ 第2章「（3）アメリカ式「自己顕示術」」の後半「自己顕示術」から終わりまでの内容について								
授業計画【第9回】	第3章「集団の中の個人」① 第3章前半「（1）内在型と外在型の日本型とアメリカ型モデルの周辺」の内容について								
授業計画【第10回】	第3章「集団の中の個人」② 第3章後半「（2）日本型とアメリカ型モデルの周辺」の内容について								
授業計画【第11回】	第4章「小さな選民たち」① 第4章前半（最初から「PDSとS校」おわりまで）の内容について								

授業計画 【第12回】	第4章「小さな選民たち」② 第4章後半（「人格教育とエリートの育成」から最後まで）の内容について
授業計画 【第13回】	第5章「キング先生の闘い」 第5章の内容について
授業計画 【第14回】	第6章「内なるアメリカ、内なる日本」 第6章の内容について
授業計画 【第15回】	まとめ～講義全体をまとめる～
授業の到達目標	① 子どもの概念のあり様や変化について理解する。 ② 社会がむける子どもへの視野や子どもへの働きかけを理解する。 ③ 子どもにとって重要な学校についてその始まりや重要性について理解する。 ④ 子どもが置かれている現状について理解する。 ⑤ 人の生き方が多様化し、常に学び続けるようになることを理解する。
学位授与の方針 (DP)との関連	2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学習 【予習】	テキストを読む（1時間程度） 担当する話題提供部分に関して読みこみ、資料を作成する（1時間程度）
授業時間外の学習 【復習】	授業をまとめる（1時間程度） 最終レポートの構想（1時間程度）
課題に対する フィードバック	授業の感想などについては、最終回にフィードバックする。
評価方法・基準	授業ごとの感想シート 60点（15点×4点） 授業参加・姿勢（意見交換への参加状況を含む） 20点 最終レポート 20点
テキスト	テキストおよび配布資料を用いる テキスト1：恒吉僚子著「人間形成の日米比較—かくれたカリキュラム—」中公新書
参考書	田中克佳 教育史 八木透 日本の通過儀礼 鳥越皓之「サザエさん」的コミュニティの法則 磯田道史 武士の家計簿 加野芳正 新しい時代の教育社会学 佐藤晴雄 生涯学習概論 木村元 日本の学校受容 片桐芳雄・木村元 教育から見る日本の社会と歴史
備考	本講義は、第3回から第14回までは以下の内容で行います。 講義60分程度・意見交換20分程度・感想文作成10分程度 ※意見交換は、受講生間での講義に関する話し合いの時間とします。ここでの参加状況も評価に加えますのでご注意ください。